

沖縄文化研究所

【2025 年度 大学評価総評】

24 年度の目標の達成状況報告書の自己評価、および今年度の中期・年度目標の設定は適切に行われている。

「開かれた法政」を具現する活動として、総合講座「沖縄を考える」はきわめて有益であり、研究所の貴重な蔵書・資料の公開とともに継続的な開催および充実を期待したい。

25 年度の重点目標に挙げられている「第三者評価の仕組みの導入の検討」というのは、年度目標というより地道に続けるべき中期目標と思われるが、その姿勢を評価したい。24 年度の重点目標の達成のための施策の欄に記されていた「学内専任教員で琉球・沖縄等を研究領域とする教員の探索と積極的な声掛け」では、1 名新規運営委員委嘱を承認しており評価できる。積極的な声掛けは専任所員のみならず広く有用な情報を学内で共有するため、外部資金の獲得の模索とともに、引き続き期待したい。

なお、25 年度の達成指標に挙げている、総合講座の一般市民受講者数については、必ずしも具体的な数値は気にしなくてもよいと考える。例えば、熱心なリピーターが一定数いれば、或いはリピーターの数が増えていれば、それは表面的な参加者数には表れないものの、望ましいことである。また、春・秋各 14 回もの講演者を決めるのは大変な苦勞だと推察されるが、25 年度も総合講座の完全実施と受講者数の増加を目標に掲げている点も高く評価できる。

【2025 年度 自己点検・評価結果】

I. 改善・向上の取り組み

(1) 2024 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2024 年度大学評価結果総評】(参考)

総合講座「沖縄を考える」について、春 14 回、秋 14 回を完全実施できたことは評価したい。しかし、社会人受講者については、コロナ前の目標と比較すると、3 分の 1 程度の達成状況であり、今後も積極的な広報活動などが望まれる。

科研費等への外部資金獲得については新規 1 件の獲得があったと報告されている。目標指標には申請数についての記載もあることも含め、積極的な外部資金獲得を実現するために、申請数についても継続的な管理を行ない、外部資金調達の活動の「見える化」を進めることが望まれる。

第三者評価について、運営委員会により、議論され、2023 年度は実施しないことが決議されたことを確認した。費用面の課題も上げられており、現状の運営体制も考慮して、今後、継続審議する課題であるかどうかを、十分に議論して結論に導いていくことが望まれる。

2024 年度の年度目標が、2023 年度の年度目標と、ほとんど同じである点が気にかかる。次年度以降については、目標の変更や、同じ目標であっても、達成指標の数値を具体的に吟味するなど、管理しやすい体制についても改善が望まれる。

【2024 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

社会人受講者の参加者数を増やすべく、広報活動に工夫を凝らしたい。

ただし、沖縄への関心を惹起するには、大学の広報活動だけでは不十分である。沖縄については、沖縄以外の場所では、観光をのぞいて、報道されることが少ない。受講者の減少は、世論における沖縄への関心が低下していることのアラわれでもある。

外部資金への申請数を増やすには、外部資金を調達する必要がある研究課題・プロジェクトを設定するところから始めなければならない。そのためには、各研究員の研究の深化のみならず、研究者相互の知見・情報の共有も進めなければならない。そのような共有を可能にする機会・場を設ける試みが必要である。

第三者評価について、ひきつづき検討していきたい。

年度目標の設定については、前年度の目標の達成状況に鑑みながら、次年度の目標を定めていきたい。達成状況の吟味については、定量的分析だけではなく、定性的な分析もあわせておこないたい。

(1) 改善・向上の取り組み (教員・教員組織)

<p>研究所（センター）内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		

(2) 改善・向上の取り組み（社会連携・社会貢献）

<p>社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		

II. 全学的な自己点検・評価結果より見出された重点的な評価項目

(1) 自由を生き抜く実践知を体現する取り組み

<p>研究所（センター）における「実践知」を体現する取り組みについて、改善・向上を図っていますか。</p> <p>＜対応する大学基準：社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。＞</p>	<p>S. さらに改善した又は新たに組み組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。</p>	<p>A (概ね従来通りである又は特に問題ない)</p>
<p>上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。</p>		
<p>《内容》</p>		

III. 2024 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	研究活動
中期目標	<p>研究所創立 50 周年記念プロジェクトおよび関連プロジェクトを確実に実施する。 人文・社会の 2 つの研究プロジェクトが毎年、研究成果を刊行できる研究体制をつくる。 研究のための外部資金を確保する。 収集・受け入れの進んだ貴重文献や各種コレクションの整理を進め、閲覧可能な形にして提供するとともに、HP などによるデジタルアーカイブ化を進める。 各種定期刊行物の発刊に努める。</p>
年度目標	<p>①総合講座「沖縄を考える」の完全実施 ②外部研究資金の確保 ③LU 募金の PR と募集 ④運営委員の補充 ⑤研究所が所蔵する貴重史料のうちの「楚南家文書」原史料の図書登録変更 ⑥第三者評価の仕組みの導入に関する検討</p>
達成指標	<p>①は授業回数 ②は科研費および他の外部資金申請・採択件数 ③は募金額</p>

	④は補充できた運営委員数 ⑤は法政大学図書館 OPAC における図書登録変更状況 ⑥は運営委員会での審議状況
年度末報告	執行部による点検・評価
	自己評価 S
	理由 ①予定した回数（春学期：14回、秋学期：14回）を完全実施した。 ②2件継続、1件獲得 ③736,500円（ただし2024年3月31日現在） ④第7回運営委員会（2024年11月20日開催）において、1名（文学部教授）の新規運営委員委嘱を承認した。（ただし着任は2025年4月1日より。） ⑤本年度はデジタル化を優先したが、登録変更も完了間近である。 ⑥第7回運営委員会において、i)運営委員会と他大学の教員も出席する所員会議を併行開催しており、外部からの眼は機能している、ii)7大学の研究所で構成される沖縄学研究機関所長会議でも意見交換や問題の共有を行っている、iii)外部評価を実施する費用（評価者への謝礼）を捻出することは難しい状況である、という3つの理由から、今年度は実施しないことが承認された。
	改善策 ②に関連して、運営委員会における申請の更なる奨励および申請数の継続的な管理ならびに外部資金調達活動の「見える化」の推進
	評価基準 社会連携・社会貢献
中期目標 総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加を広げる。 沖縄の現状等に関するシンポジウム、講演会等を拡充する。 研究所創立50年を機としたHPなど広報・情報発信手段の拡充	
年度目標 ①総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加拡大 ②研究所ホームページなど広報・情報発信手段の拡充	
達成指標 ①は社会人受講者数 ②はホームページ更新状況など	
年度末報告	執行部による点検・評価
	自己評価 A
	理由 ①延べ832名（春学期：408名、秋学期：424名）の社会人受講者があった。 ②随時に、必要に応じ更新している。
改善策 ①に関連して、昨年度社会人受講者（延べ657名）からは27%増だが、コロナ前の目標と比較すると4割弱という達成状況なので、今後もホームページ等を用いて積極的な広報活動を展開する。	
<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も1名が退任した（定年退職による）運営委員の補充 ・第三者評価の仕組みの導入に関する検討 ・「楚南家文書」原史料に関する図書登録変更 <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内専任教員で琉球・沖縄等を研究領域とする教員の探索と積極的な声掛け ・運営委員会での継続的審議および実施に必要な費用（評価者への謝礼）の工面 ・研究所研究助成金の獲得による着実な履行 	
<p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>年度目標——とくに重点目標——について以下のことを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会において、1名（文学部教授）の新規運営委員委嘱を承認した。（年度末報告・理由欄の④を参照されたい。） ・運営委員会において継続的な審議を行った。（年度末報告・理由欄の⑥を参照されたい。） ・「楚南家文書」のデジタル化と併行して図書登録変更も着実に進めた。（年度末報告・理由欄の⑤を参照されたい。） <p>上記に加え、2024年5月に本報告書を提出後、沖縄県より「玉城デニー知事トークキャラバン」を本研究所との共催で行いたいとの申し入れがあり、入念な準備ののち、2024年11月6日に同イベント</p>	

を完遂し得たことを特記しておく。

IV. 2025 年度中期目標・年度目標

評価基準	研究活動
中期目標	研究所創立 50 周年記念プロジェクトおよび関連プロジェクトを確実に実施する。 人文・社会の 2 つの研究プロジェクトが毎年、研究成果を刊行できる研究体制をつくる。 研究のための外部資金を確保する。 収集・受け入れの進んだ貴重文献や各種コレクションの整理を進め、閲覧可能な形にして提供するとともに、HP などによるデジタルアーカイブ化を進める。 各種定期刊行物の発刊に努める。
年度目標	①総合講座「沖縄を考える」の受講者（在校生＋一般市民）数の増加 ②外部研究資金の確保 ③LU 募金の PR と募集 ④兼任所員の補充 ⑤研究所が所蔵する貴重史料のうちの「楚南家文書」原史料のデジタル化 ⑥第三者評価の仕組みの導入に関する検討
達成指標	①は受講者数 ②は科研費および他の外部資金申請・採択件数 ③は募金額 ④は補充できた兼任所員数 ⑤はデジタル化が完了した史料数 ⑥は運営委員会での審議状況
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加を広げる。 沖縄の現状等に関するシンポジウム、講演会等を拡充する。 研究所創立 50 年を機とした HP など広報・情報発信手段の拡充
年度目標	①総合講座「沖縄を考える」への一般市民の受講者数の拡大。シンポジウム・講演会の実施の可能性についての検討の場を設ける。 ②研究所ホームページなど広報・情報発信手段の拡充と多様化の模索
達成指標	①は一般市民の受講者数。検討会議の議事録 ②はホームページ更新状況。多様化の検討の報告
<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・兼任所員の補充 ・第三者評価の仕組みの導入に関する検討 ・「楚南家文書」原史料のデジタル化 <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会での継続的審議および実施に必要な費用（評価者への謝礼）の検討 ・デジタル化は経常経費でおこなう。 	

IV-2. 2025年度中期目標・年度目標達成状況報告書

沖縄文化研究所

評価基準	中期目標 (2022-2025年度)	年度目標	達成指標	年度末報告		
				教授会執行部による点検・評価（教授会承認）		
				自己評価	理由	改善策
研究活動	研究所創立50周年記念プロジェクトおよび関連プロジェクトを確実に実施する。 人文・社会の2つの研究プロジェクトが毎年、研究成果を刊行できる研究体制をつくる。 研究のための外部資金を確保する。 収集・受け入れの進んだ貴重文献や各種コレクションの整理を進め、閲覧可能な形にして提供するとともに、HPなどによるデジタルアーカイブ化を進める。 各種定期刊行物の発刊に努める。	①総合講座「沖縄を考える」の受講者（在校生＋一般市民）数の増加 ②外部研究資金の確保 ③LU募金のPRと募集 ④兼任所員の補充 ⑤研究所が所蔵する貴重史料のうちの「楚南家文書」原史料のデジタル化 ⑥第三者評価の仕組みの導入に関する検討	①は受講者数 ②は科研費および他の外部資金申請・採択件数 ③は募金額 ④は補充できた兼任所員数 ⑤はデジタル化が完了した史料数 ⑥は運営委員会での審議状況	A	①春学期86名、秋学期73名（昨年度は、春40名、秋66名） ②申請は1件（採択は0）、継続1件 ③498700円（ただし、2025年3月31日現在） ④定年退職者が一名あったが、その後任は空席 ⑤楚南家文書のデジタル化は完了した。 ⑥ i)運営委員会と他大学の教員も出席する所員会議を併行開催しており、外部からの眼は機能している、ii)外部評価を実施する費用（評価者への謝礼）を捻出することは難しい状況である、という2つの理由から、第三者評価の仕組みは導入していない。これについて、第6回運営委員会（2026年3月13日開催）で審議済みである。引き続き新年度の運営委員会でも諮りたい。	受講者数のいっそうの増加を図るとともに、兼任所員の充足に努める。
社会貢献・社会連携	総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加を広げる。 沖縄の現状等に関するシンポジウム、講演会等を拡充する。 研究所創立50年を機としたHPなど広報・情報発信手段の拡充	①総合講座「沖縄を考える」への一般市民の受講者数の拡大。シンポジウム・講演会の実施の可能性についての検討の場を設ける。 ②研究所ホームページなど広報・情報発信手段の拡充と多様化の模索	①は一般市民の受講者数。検討会議の議事録 ②はホームページ更新状況。多様化の検討の報告	S	①受講者数の延べ数は、春学期351名、秋学期499名＝850名（昨年度は、832名） ②沖縄文化研究所のXのフォロワーが2025年度当初より、154名増えている。投稿も週3回以上おこなっている。	SNSをひきつづき使って（発信も含めて）、受講者の募集を呼びかける。

自己評価について

- S 目標を十分達成し、質の向上が顕著である。
- A 目標をほぼ達成し、質の向上が見られる。
- B 目標の達成が不十分である。
- C 目標が達成できていない。

【重点目標】	【目標を達成するための施策等】
<ul style="list-style-type: none"> ・兼任所員の補充 ・第三者評価の仕組みの導入に関する検討 ・「楚南家文書」原史料のデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会での継続的審議および実施に必要な費用（評価者への謝礼）の検討 ・デジタル化は経常経費でおこなう。
【年度目標達成状況総括】	
<p>年度目標については、総合講座の受講者数の増加、文書のデジタル化、広報活動については、進捗があったものの、外部研究資金の採択は得られなかった。達成できなかった項目、一部のみ達成した項目については、達成方法・その実現可能性なども検討しつつ、取り組んでいきたい。</p>	